

様式第2号（8関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	令和7年度第2回ひたちなか市環境審議会	
開 催 日 時	令和7年10月27日（月）14時00分～15時30分	
開 催 場 所	ひたちなか市役所第三分庁舎 防災会議室1, 2	
出席者	委員（者）氏名	小松崎委員，中原委員，森島委員，鎮目委員，柳生委員 中村委員，川又委員，田所委員，白土委員，小川委員
	担当部課職員職氏名	松本経済環境部長 植野環境政策課長 小澤環境政策課長補佐兼係長（環境政策担当） 高橋環境政策課係長（環境対策担当） 野尻環境政策課主任 押嶋環境政策課主事
会 議 次 第 及 び 会 議 の 公開又は非公開の別	令和7年度第2回ひたちなか市環境審議会 1 開会 2 あいさつ 3 審議事項 ・「ひたちなか市第3次環境基本計画」の改定について 4 その他	
非 公 開 の 理 由 (会議を非公開とした場合)		
傍 聴 者 の 数	0名	
会 議 資 料 の 名 称	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和7年度第2回環境審議会次第 ・ 環境審議会委員名簿 ・ 説明資料1 市第3次環境基本計画の改定について ・ 説明資料2 「河川環境対策の推進」の改定案について ・ 説明資料3 持続可能な社会づくり（環境を意識したライフスタイルの推進）の改定について ・ ひたちなか市第3次環境基本計画 	
会 議 録 の 作 成 方 法	要約方式	
そ の 他		

審議内容（発言者，発言内容，審議経過，決定事項等）	
事務局	1 開会
小松崎会長	2 あいさつ（会長）
事務局	3 審議事項 <p>・「ひたちなか市第3次環境基本計画」の改定について改定の内容，主に計画内の重要施策であるリーディングプロジェクト（「河川環境対策」および「環境を意識したライフスタイルの推進」）の改定の方向性について，資料に基づき説明を行った。</p> <p>質問や意見，提案等があり，全員一致で了承となった。内容は次のとおり。</p> <p>（質問，意見，提案等）</p>
小川委員	<p>今までの河川環境の測定の結果を見るだけでなく，原因の分析も大切だと思う。測定して N-BOD（窒素系 BOD）の値が高いのであれば，それがどこから来ているのかという要因を分析し，関連する場所へ優先的に対策を講じるべきではないか。</p>
事務局	<p>調査の結果，早戸川での数値が高いことが見えてきた。様々な場所からの流入が考えられるため，事業所や生活排水など，その辺りの原因究明をこれから調べていければと考えている。</p>
小川委員	<p>承知した。</p>
森島委員	<p>排水がどこからは排出されているかなどエリアは分かっているとのことだが，もし原因が事業所だとすれば，排出する水質が基準の範囲内であるかというところまでは確認されているのか。</p>
事務局	<p>確認は行っており，現時点では，排水基準を違反している事業所は，確認されていない。中には独自で厳</p>

	<p>しいルールを設けている事業所もある。</p>
森島委員	<p>基準は守られているが，全体としての流入量が多いことが原因という推測でよいか。</p>
事務局	<p>その通りである。</p>
森島委員	<p>そのため，今回の改定では，できるだけ排水を下水道の方へ転換してもらおうよう促しておくこと施策として考えているという認識でよいか。</p>
事務局	<p>おっしゃる通りである。</p>
森島委員	<p>承知した。</p>
事務局	<p>下水道への転換について補足させていただく。令和8年度から，水戸少年刑務所から市毛小学校までのエリアをイメージしていただきたいが，その地区の下水道整備事業計画に挙げられると聞いている。その為，今後10年間程度を目途にその地区の下水道整備が進むと情報を得ている。</p>
小松崎会長	<p>窒素系の化合物などを使っている業者はどのくらいあるのか。排出濃度が低くても，会社の数が多ければ総量が増えてしまう。そのあたりの調査はされているか。</p>
事務局	<p>企業活動が活発になり排水が増えれば，多くなるとは認識している。具体的な調査まではしていない。</p>
小松崎会長	<p>承知した。</p>
小川委員	<p>早戸川だけでなく，以前行っていた湖沼（名平洞など）水質の対策は，今後も継続される予定はあるか。</p>

事務局	継続的に実施していく。
小川委員	以前、環境報告として水質測定状況を市のホームページに掲載していたと思うが、最近は掲載されていない（更新されていない）と考える。できれば継続して掲載してほしい。
事務局	環境報告はホームページで掲載していたので、情報が古い、あるいは掲載し忘れていた箇所があれば、確認して逐次改善させていただきたい。
小川委員	承知した。
森島委員	N-BOD について今まで測定を行ってきたとのことだったが継続していくという事でよいか。
事務局	その通りである。
森島委員	承知した。N-BOD は環境への影響が比較的少ないとも言われているため、C-BOD についても引き続き測定をお願いしたい。また、別件にはなるが気候変動対策は、昨年度策定した計画（区域施策編）がそのままリーディングプロジェクトとして継続されるという理解でよろしいか。
事務局	河川環境については引き続き、C-BOD の観測も行っていく。また、気候変動対策についてはご認識の通りである。
森島委員	3つ目のリーディングプロジェクト（環境を意識したライフスタイルの推進）について「学ぶ」から「行動」に結び付けていくことが重要だが、イベント等で興味を持ってもらっても、それが実際の行動にどれだけ結びついているかという成果を常に確認しながら政策を改善していく必要があるのではないか。

小松崎会長	<p>体験型学習についてもそれがどこまで環境に良い行動に結びついているのかはなかなか判断が難しい。また、アンケートについても人による捉え方の違いがあるなど、成果の指標としてどのような方法をとるのが良いかは難しい課題である。</p>
事務局	<p>体験学習を実施しても、それが行動にどう結びついているかの判断が難しい点は我々も気にしている。また、体験型学習も含め、環境に関するイベント等への委員の皆様からの助言やご協力をいただきながら進めていきたい。</p>
鎮目委員	<p>リーディングプロジェクトの「環境を意識したライフスタイルの促進について」、「探究学習」についての施策があるが、高校の学習指導要領に入った「探究」は、「求める」ではなく「究める（研究の究）」の字を使う。持続可能な教育に繋げるためには「究める」探究が必要だと思う。特に小学校3・4年生あたりから体験学習ができるようになってくるので、その辺りを育てていければと思う。</p>
事務局	<p>勉強不足で文字の誤りがあり大変申し訳ない。「探究」について改めて勉強させていただきながら、学校の先生方と協力して使いやすいプログラムを提供できるよう検討していきたい。</p>
小川委員	<p>シンポジウムはアップデートされるとのことだが、これまでのような環境活動の発表の場はなくなるということか。</p>
事務局	<p>発表のブースをなくすわけではなく、「発表する場所」と「体験する場所」を増やし、どちらもできるイベントを目指している。ブースごとの偏りが生じないように、スタンプラリーなどの工夫を検討している最中である。</p>

中村委員	<p>自治会での資源廃棄物の回収量が非常に落ちており、自治会を構成する大人たちの環境意識が低いと感じる。子供たちだけでなく大人もリサイクルを実践できるよう、「自分さえよければ」ではなく、もう少し負担を分かち合うような考え方ができないか。</p>
事務局	<p>クイズなどを通じて保護者と一緒に答える機会を増やし、大人にも改めて考え直すきっかけになればと思っている。情報の提供は継続する。自治会様向けには出前講座を用意しているが、小中学校に比べて依頼が少ないのが現状なので、プログラムをブラッシュアップし、自治会へも施策を展開できるよう考えていく。</p>
森島委員	<p>本日の議題はリーディングプロジェクトについてだが、環境基本計画は全体として幅広い計画である。策定から5年が経過しているので、情勢の変化を踏まえ、積極的に見直すべきところは見直す必要があるのではないか。防災対策、太陽光、クーリングシェルター（指定暑熱避難施設）など多くの課題があるので、しっかりと全体の見直しをお願いしたい。</p>
事務局	<p>5年間の変化については各課で調査しており、確実にアップデートさせていただく。ご指摘のあったクーリングシェルターや、ひたちなか地区における「カーボンニュートラルポート（CNP）」の取り組みなど、新しい情報に関して反映させ、基本的な計画とさせていただこうと考えている。</p>
事務局	<p>4 その他 （質問、意見、提案、連絡等）</p>
事務局	<p>本日いただいた意見を反映した素案について第3回において委員の皆様にご審議いただく。 第3回については、12月中旬から下旬を予定している。</p>

5 閉会

以上，会議の内容に相違ないことを証明する。

令和8年1月29日

ひたちなか市環境審議会 会長 小松崎 秀人